

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 沼 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

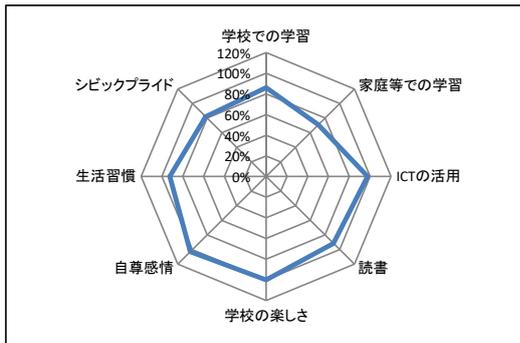
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	最後まで書き切る意欲は全国平均を上回っている。今後は、集めた材料を整理して文章の構成を練る力を重点的に育てていく。日常生活と結びついた書く活動を通して、目的や相手に応じた『伝わる文章力』を単元全体で育てていく。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	記述問題に挑む意欲は全国平均を上回っている。今後は、図や式を使って「答えにたどり着くまでの道のり」を順序立てて説明する力を伸ばしていく。また、自分の考えを自分の言葉でしっかり伝えられるよう、授業を工夫していく。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	答えを書こうとする意欲は全国平均以上に育っている。今後は、実験結果を基に、図やグラフを交えて自分の考えを分かりやすく伝える力を伸ばしていく。また、授業を通じて、論理的に考え、説明する活動をさらに充実させていく。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	身の回りの金属について、電気を通すもの・磁石に引き付けられる物があること知識が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<p>○家庭学習において1日1時間以上勉強する児童の割合が全国平均を下回っていた。「学年×10分」を家庭学習の目安として全校で共有し、一人一人の興味やペースに合わせた「自主学習（自学）」の内容や出し方を工夫し、自ら学ぶ習慣を後押ししていく。</p> <p>○自分のよさを肯定的に捉えている児童の割合が全国平均を下回っていた。日々の成長を認め、褒める指導を徹底する。また、友達同士で互いのよさを伝え合う場を設け、「自分は大切な存在だ」「人の役に立っている」と実感できる機会を増やしていく。</p> <p>○「地域のために何かしたい」と考える児童が約7割程度であった。今後も地域の方々との交流を通じ、自分たちが支えられていることに気付くとともに、地域の一員として貢献できる活動に進んで取り組むように支えていく。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」をおさえ、児童が「できた」「分かった」が実感できる授業を繰り返し実践する。
- 友達と意見を交換したり、自分の意見をまとめ発表したりする場面でも、ICT機器を効果的に活用する。
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る補充学習の取組を推進する。（朝の学習タイムの見直しやひまわり教室の充実）

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 自主学習ノート（3年生以上）を活用し、「書くこと」を習慣化する内容を取り入れる。（日記、今日の学習の振り返り等）また、学年通信や学校通信を通じて、学習時間・学習内容・学習方法などについて、具体的に児童及び保護者へ啓発を行う。
- あいさつ運動やもくもく掃除等において、縦割りグループを活用した活動に継続的に取り組み、自尊感情が高まるようにする。